



様式第4号（第7条関係）

令和8年2月3日

東かがわ市議会議長

工 藤 正 和 様

東かがわ市議会議員

（個 人）

氏名 田 中 貞 男

行政視察等報告書

1	日 時	令和8年1月26日から1月27日	
2	参加者	田中貞男	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		令和7年度清溪セミナー千葉 県木更津市現地視察	千葉県木更津市（木更津市議会、 クルックフィールドズ、道の駅う まくたの里）
4	研修・調査内容	1. オーガニックなまちづくりについて 2. 学校給食米の取組について 3. クルックフィールドズ現地視察 4. 道の駅「うまくたの里」について 5. 新庁舎見学 6. 木更津教育の日研修会の実施について 7. 小規模特認制度について	
5	研修成果	別 紙 (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	45,290円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

令和7年度清溪セミナー千葉県木更津市研修報告

令和8年1月26日から1月27日

1 オーガニックなまちづくりについて

木更津市が掲げるオーガニックなまちづくりとは、「農業にとどまらない、まち全体の挑戦」として取り組んでいる。企画部の中にオーガニックシティ推進課を設けている。

取組として、2016年にオーガニックなまちづくり条例を制定して、2019年に学校給食米の有機化を開始し、5名の生産者からスタートした。現在は参加する生産者が20名を超え、拡大している。今後の展開は、再生可能エネルギーの導入と脱炭素の取組も拡大し、「地域循環共生圏」構想に呼応し、エネルギー・教育・観光を結ぶ木更津モデルの芽生えにする。

- (1) 第1期を平成28年から令和1年、第2期を令和2年から令和5年、第3期を令和6年から令和9年として現在取り組んで来ており、経済・環境・社会の三本柱として、「経済循環を高める食×農プロジェクト」を進め、主体的に行動する人を育み、「脱炭素化プロジェクト」として、自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備し、「支え合いによる防災・減災プロジェクト」として、多様なあり方の認め合いや支え合いに自立した地域社会を構築している。
- (2) 取組として「ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用」があり、湧水(いっせんぼく)場所を綺麗にし、荒廃した周りを整備し生態系を取り戻すことで湿地帯を観光にしている。
- (3) 市のゴミの総量の3%が衣類であることから、衣類の循環サイクルの促進として、合同生徒会が学校で衣類を回収して和紙にしている。
- (4) 漁場環境の改善として、海草のコアマモを植え、アサリの生育に寄与している。コアマモを間引いたものを混抄紙にしている。
- (5) 産・官・学・メディア・各種団体で「木更津市オーガニックシティプロジェクト推進協議会」を設立している。「オーガニックなまちづくり」に関する取組をする認定企業は96社で共に取り組んでいる。

- (6) 米作り等については、2016年からお米や加工品の消費拡大に向けて取り組み始め、「木更津米を食べよう条例」も制定された。

2017年に地元野菜を食べて循環・学校給食プロジェクトの取組が始まったことで有機米の生産促進の取組が始まった。

2019年に専門家の技術指導で生産者5名が有機米の栽培を1.8haからスタートした。(学校給食用に生産された米が市内の学校給食として3日間供給された。)

2 学校給食米の取組について

- 1 木更津市の学校給食の現状は、小学校18校、中学校12校で約11,500食を作っている。
- 2 センター方式は1施設あり、小学校6校、中学校4校で約5,600食を、自校親子方式は小学校11校、中学校8校あり、約5,400食を作っている。自校単独校方式は、小学校1校で約500食作っている。
- 3 給食米100%オーガニック化についての年間の実施日数は、スタート時の令和元年は3日で、令和5年度は83日、令和6年度96日、令和7年度86日予定、令和8年度91日予定である。米飯は県学校給食炊飯事業者をお願いしている。
- 4 木更津市きさらづオーガニック給食基金があり、給食の財源として、一般財源と基金から補助を出している。

給食費は県からの補助も受けながら、令和7年度から第3子以降を無償化として取り組んでいる。

- 5 学校給食への有機食材導入は、市経済部・教育委員会・JA木更津市・県学校給食会・炊飯事業者・生産者などと協議して食農教育の強化を図っている。

3 KURKKU FIELDS(クルックフィールズ)現地視察

オーガニックへの取組を提案する、(株)Kurkku(クルック)を設立した会社が、2010年にap bankと地元農業生産法人の(株)千葉農産の合併により「(株)耕す」を発足し農業生産法人として木更津市矢那地区の30haの牧場跡地に農場を開設し

た。設立後、2011年から有機JAS認証を取得して、年間約40トンの有機農産物を首都圏に販売している。その後、敷地内に1メガワットの太陽光発電事業を開始して、その後1メガワットの太陽光発電を追加する。

2019年にKURKKU FIELDSをオープンし、翌年に株式会社を設立し、運営を行っている。

週末は700人程度の来場者があり、平日は校外学習を行い、年間に6,000人程度来場者がある。敷地内には、フラック棟・牛舎・宿舎・堆肥舎・チーズ工房・農産物加工場などがある。また、レストラン・マルシェ・加工体験施設などもある。

都市計画法による制限を受けることもあるが、千葉県と協議を重ねながら変更して、許可をもらっている。

4 道の駅「うまきたの里」について

市が5億円事業で建設を行い、指定管理で運営を行っている。指定管理費用は、3,000万円で管理をしていただいている。売り上げについては、オープン以来右肩上がりでの売り上げをしているとのこと。今年度は、約11億円を見込んでいるとのこと。収益の中から市へ納めていただいている金額が約7,000万円だそう。高速インター入口にも近いことから、民間会社が指定管理者になっているとのことだった。

5 新庁舎見学について

駅前庁舎は、中心市街地に位置し、デパート跡地に新たに庁舎を建設する計画が進められており、市が直接建設をする。

朝日庁舎は、イオンの駐車場だった部分に2階建ての庁舎をイオンが建設した。この庁舎を市がイオンから借り、年額2,000万円で利用することとしている。今後、現在のイオンの中にあるスーパーが建て替えを行う際、庁舎の2階建て部分とスーパーを廊下でつなげて、利便性を高める計画があるとのことだ。

6 木更津教育の日研修会の実施について

木更津「教育の日」研修会を制定した。学校教育の指針「新木更津プラン」では「自立する力」と「共生する姿勢」の育成を目標に掲げている。急速に変化する社会において、子どもたちが豊かに力強く生きるために、新プランで「考える力」と「主体性」を伸ばすことの重要性を新たに加えた。市内の全教職員で共有することと、意識の統一化を図るため学校職員研修会として今年度から企画した。

講師の工藤勇一アドバイザーは、「当たり前」を徹底的に見直し、定期テストや宿題の廃止など多くの教育改革を行ってきたことで知られていることから、人間は生まれながら「主体性」をもっているのに学校教育で「主体性」が失われ、「大人が望むことを【自主的】に行う子どもになっていく」という課題を提起している。木更津市が目指す「考える力」「主体性」を伸ばし「自立する力」と「共生する姿勢」を育成する教育理念と子どもたちが目指す「子どもがもつ主体性」を伸ばし「自律」する子どもを育てるところに親和性があったことから、3回にわたり研修会を開いた。

- (1) 社会の変化とこれからの学校教育～主体性と当事者性
- (2) 自律を支える学校経営～生徒指導の手法と保護者対応
- (3) 人材育成と組織改革の秘訣（校長・副校長・教頭・指導主事）

を対象に取り組んできた。

成果として、目指す方向を市内全教職員で共有できた。指導の在り方についての課題に対し、自らの指導方法を振り返ったり、改善に取り組んだりすることに繋がった。

課題として、「知識・技能」の習得だけでなく、「考える力」や「主体性」を伸ばすために、教員自身がこれまで受けてきた、一斉説明型の授業から脱却し、授業改善が必要である。今後の指導方法や効果的な実践を共有する必要がある、研究を進めるとのことだ。

7 小規模特認制度について

少人数ならではのきめ細かい指導や地域との連携した特色ある教育活動を推進して、一定の条件のもとで学区をこえて、市内全体からの児童の入学や転校の受け入れを認める制度。

市内において平成25年度から2小学校を特認校とした。平成27年度には小学校と中学校でも特認校に取り組んだ。現在までに4小学校と2中学校が制度として運営している。また、小規模校への学校配当予算を設けて、1校につき約20万円を活動として使用している。

特認校の全体の児童生徒数は535人で学校配当予算を利用している児童は153人。

■ 研 修 成 果

オーガニックまちづくりについては、米飯給食等において、地域の生産物を子どもたちに食してもらっていることは良かったと思うし、米については100%地域生産の有機米を使用していることに感激で、東かがわ市も水主米を利用する事が望まれる。

KURKKU FIELDS(クルックフィールドズ)については、民間の会社で地域を引っばっているのと農業観光の一つとして行政・JAも関わりながら取り組んでいることは素晴らしいことであり、これからの農業について行政も力を入れて取り組む必要があると感じた。

道の駅「うまいたの里」については、経営が上手くいっている数少ない道の駅だと感じたのと経営を担う人(指定管理者)で運営が決まってくると感じた。

新朝日庁舎については、民間の施設を行政が利用していくことに、疑問がありながらも管理経費が掛かるものを利用する一つの考え方は良いと思うが数十年経てみないと、リース支払いが良いか分からない。

木更津教育の日については、押しつけの教育ではなく、子どもたちの主体性を伸ばす教育は現代の社会では良いのかなと感じた。また小規模特認校制度について

は、勉強の復習になって、異なるペースで理解する児童生徒にとって、とても良い環境だと感じた。